

満員

## 考え方とユーザー事例で学ぶ 変化・変動に強いシステム構造と環境の考え方

(4114209)

解決のための一つのアプローチとして「FOA(Flow Oriented approach)」の考え方や、ユーザーの取り組み事例、変化・変動に強いシステム構造と環境について学び、考えます。

開催日時	2015年2月6日(金) 13:00-16:50
講師	<p>奥雅春 氏          (株式会社smart-F0A社長 FIMコンソーシアム代表 玉川大学工学部客員教授 元ブリヂストン取締役常務執行役員)          岡山県出身、1973年長崎大学工学部電気工学科卒業、ブリヂストン入社。技術センターや工場において、一貫してタイヤの生産および製造技術の開発運用面に従事。1989年から買収直後のファイヤストーン社(米国アクロン)に派遣、以後20年にわたってブリヂストン流のものづくりによる買収先の立て直しと、ブランド価値の向上に奔走。2002年からは取締役常務執行役員(生産および生産技術管掌)として経営に参画、2007年ブリヂストンサイクル代表取締役会長を兼任。退任後2010年から大学で経営と情報に関する研究、講義を行う。現場の苦労から生まれたシステム構築コンセプトFOAを提唱し、普及に尽力。東京大学経済学研究科モノづくり経営研究センター特にン研究員を経て、現職に至る。</p> <p>山根宏輔 氏          (株式会社小松製作所(コマツ) 執行役員 情報戦略本部長)          1981年コマツ入社以来、経理財務畑を中心に歩んできた。コマツの損益計算や連結決算のシステム再構築、米国半導体製造装置メーカーとのジョイントベンチャー出向、コマツアジア駐在、本社の広報IR部長と、異なる環境、地域で幅広く経験を積み、2008年4月からシステム部門長の職にある。これまで自身がサービス提供を受けてきたシステム部門を、ユーザー目線と経営視点で変えていくのが、今の情報戦略本部長としての役目である。</p> <p>織田孝司 氏          (株式会社オンザマーク エグゼクティブ・マネージャー)          富士通(株)のSEとして製造、流通業のお客様を中心にサポートするフィールドSEとして汎用機におけるシステム構築、オープンシステムのインフラ構築、アプリケーションの開発(オフショア開発含む)、汎用機のオープン化、等数多くのシステム開発を実施。          2002年に(株)荏原製作所に移り、情報部門のテクニカル面の責任者としてデータセンターの建設、荏原グループネットワークの構築、荏原グループ共通情報基盤の構築、ポンプ試験システムの構築等を手掛け、2010年よりIBM汎用機のオープン化を実施。          2014年3月末荏原を退社し現在に企業システムのアドバイザーとして活動、また、IPA、JUAS, 東大ものづくりIT研究会等で活動。</p>
参加費	JUAS会員/ITC: 22,000円 一般: 28,080円(1名様あたり 消費税込み、テキスト込み)【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会(ユニゾ堀留町二丁目ビル2階)
対象	業務システムの企画・設計ご担当の方/業務の企画・推進ご担当の方 <b>中級</b>
開催形式	事例講演
定員	37名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定番号	申請中
ITCA認定時間	3.75

## 主な内容

「グローバルな販路、製造環境は毎日のように何か変化する」「新商品が競争相手から登場してくる」など現在の経営は変化に迅速に対応する力が必要とされています。しかしITを使ってシステムを作るとなると、アジャイル手法などで対応したとし

でも、ある程度の開発期間が必要となります。

環境の変化を素早くキャッチし、迅速な対応が可能となるシステムは、要件を言われてから作るのでは遅いのです。予め工場や販売店などから情報を流し込んでおき、必要時に必要な情報を取り出す仕組みが必要な時代になりました。

では変化・変動に強いシステム構造と環境を提供し、経営判断のスピードアップ、現場改善、組織力の強化を支援するためには、どのように組織や情報・ルールマネジメントを捉え直し、ITの構造や環境、考え方に落とし込んで行けばよいのでしょうか。問題が起きてからシステムを作るのでは問題解決が遅れてしまいます。今回ご紹介するFOAはそのような時代の要請に応えるために準備された仕組みです。

「言われてから作る」から「予めできるだけ予想される問題に対して情報提供を準備する」仕組みが、このFOAであります。従来のシステム作りとは一線を画すこのFOAの真髄を会得していただくためにこのセミナーを企画し3年越しの折衝の末今回実現にこぎつけました。

ものづくり現場に限らず、「決まった手順をいかにスピーディにこなしていくか」から、「手順が決まっていない未解決分野をどのようにしてかつ最適かつスピーディにマネジメントしていくか」に苦心しておられる業務部門の方やIT部門の方のヒントとして必見です。

<内容>

13:00 - 14:55 講義・QA <考え方を知る>

【セッション1】 変化・変動を「即応」「先取り」「創造」するための情報基盤とは  
～FOAによるアプローチ～

株式会社smart-FOA社長/FIMコンソーシアム代表

玉川大学工学部客員教授/元ブリヂストン 取締役常務執行役員 奥 雅春（おく まさはる）氏

必要な時に、必要な情報を、必要な人が取り出し、活用できる。そんな情報基盤を実現する考え方の一つとして、今回は長年の実績をもつ「FOA」をご紹介します。FOAではホストやファイルサーバ上で「データ」を蓄積・共有する従来型の構造とは異なり、イベント（生データ）に説明データ（生データの価値や重要度を説明するデータ）と背景データ（イベントが発生した時の背景にあるデータ）を付加した「情報」を、“回転ずし”のようにネットワーク上ヘリアルタイムに流しこむ構造をとることで、ユキピタスな情報収集環境を提供し、予兆への素早い察知と判断、対応を可能にするアプローチです。

FOAの産みの親として経営直結したITを実現されてきたご経験を交えてお話させていただきます。

14:55 - 15:50 講義・QA <ユーザー事例～型を知る>

【セッション2】 「情報の流れとビジネスを変える！コマツにおけるトレーサビリティ革新」

株式会社小松製作所 執行役員 情報戦略本部長 山根 宏輔（やまね こうすけ）氏

小松製作所（コマツ）では、現場の改善を目的としてこれまでに複数の工場にFOAの仕組みを導入してきました。また現在FOAのコンセプトを用いた情報のトレーサビリティ革新にチャレンジしています。顧客とコマツとの接点である建機一台一台に関する情報を、いかに自由度とオープン度を持ってストックし、活用していくか。変化にスピーディな施策を打ち出していくインフラを目指して、社内の情報の流れを大きく変えていこうとする活動を、ご経験を交えてご紹介いただきます。

16:00 - 16:50 講義・QA <ユーザー事例～型を知る>

【セッション3】 「生産性と品質の向上を目指して！FOA導入事例 カスタムポンプの試験システム」

株式会社オンザマーク エグゼクティブ・マネージャー 織田 孝司（おだ こうじ）氏

荏原製作所では、ポンプ生産の生産性向上を目指して、FOAの仕組みの導入を始めています。また現在FOAのコンセプトを用いた情報のトレーサビリティ革新にチャレンジしています。職人芸といわれていた製造の世界を、戦略的な情報活用という視点から、いかに変化させていくか。ノウハウの横展開を実現する情報活用の活動を、ご経験を交えてご紹介いただきます。